

市民共同おひさまプロジェクトレター

NO.7

[編集・発行] かわさき市民共同おひさまプロジェクト

2011年6月17日

みなさまの募金により第2号機が川崎フロンターレ麻生クラブハウス屋上に完成！

～ありがとうございました～

設置記念イベントおひさまパワーをあなたに！

2011年3月3日、記念イベントが高津市民館ホールで開催されました。川崎フロンターレ武田信平社長、環境局牧葉子担当理事の来賓挨拶をいただいた後、第2号機設置の様子や選手のインタビューを収めたVTRを上映しました(2ページ参照)。続いての記念講演は、環境ジャーナリストの田中優さんです。講演の要旨を伝えます。



田中優氏講演会「おひさまがつくる私たちのエネルギー」

・市民共同発電所

おひさまプロジェクトで太陽熱温水器が設置されたこと、本当におめでとうございます。温水器で良かったなと思っております。太陽熱温水器を一般家庭が取り入れるには、太陽光発電の3分の1以下の値段で入りますので、コストパフォーマンスが抜群にいいのです。それを一般の人たちに知らせていくという意味でとてもいい。

私の住む東京の江戸川で、お寺の屋根の上に太陽光発電機を載せています。すでに2号機もできています。2号機は、老人ホームの屋根に載せたのです。今は3号機も進んでいます。自分の家だけではなくて、地域全体の中の一部を補っていく、市民共同発電所という方法があるということですね。

・持続可能な社会を築くには

私たちが今後社会の中で生きていくためには、持続可能な社会を作らなければいけません。どうやったら持続可能な社会を築いていけるのでしょうか。

一つ目に、自然に再生されていく資源(自然エネルギーや天然素材、生き物由来や太陽由来のもの)だけを使うこと、二つ目に、成長するよりも長く使うことです。持続可能な社会はたった2つのことを実現すればいいのです。だから、お湯を沸かすときに、いずれ枯渇してしまう石油エネルギーを使い続けるのではなく、ずっと太陽が照り続ける限り得られる温水器を使えばいいのですね。

・地球温暖化防止に向けて大きなことを規制する

ライフスタイルの問題ですからみなさんが努力すれば改善される、と一般的によく言われるのですが、トータルで見るとそれは正しくない。なぜなら、家庭で出している二酸化炭素は全体の20%にすぎないからです。153個の工場だけで、日本の二酸化炭素の半分を出しています。ですから本当にやらなくてはならないことは、大きなことを規制することなのです。私たちがどんなに努力しても全体の20%しか減らせません。問題を解決するにはまず原因を調べてその原因に対してアプローチすることが最も重要だからです。

・発電所はエネルギーをたくさん使っている

一番大きな原因はなんだろうと見ていくと、発電所ですね。電力が出しているエネルギーが常に最大部分になっています。じゃあそれを自然エネルギーに切り替えて二酸化炭素の出ない形で発電すればいいのではないかと思うのですが、「自然エネルギーは高く不安定で役に立たない」とよく言われてしまいます。しかしこれは日本だけの話です。

実は2009年に欧州とアメリカでは、自然エネルギーの発電所が最も拡大し、特にヨーロッパでは新設発電所の60%を占めたと書かれています。世界の現実はどう違うのです。そして2010年アメリカでは、太陽光発電の発電単価よりも、原子力発電の発電単価の方が高くなりました。ですから、私たちが聞いている現実は何の国の現実と大分違いますね。こんなことが起こっているのに、メディアの情報だけだとなかなか伝わってこないことに問題があると思います。

・まずは省エネして器を小さく

自然エネルギーに変えるにしても、私たちがその前にできることがあります。それは器を小さくすることです。例えば、省エネ製品に変えたりとか、長く使えるものに変えたりとか、待機電力をカットすることです。経済的なこともちゃんと含めて考えていくなれば、まず省エネして、省エネした後の小さくなったエネルギーを自然エネルギーで賄うというのがとても重要です。

・熱の省エネは断熱

熱の省エネと考えると、一番重要なのは断熱です。断熱すべき部分は窓です。プラスチックのプチプチを窓に貼ると、断熱効果がものすごく良いのです。断熱内窓というのは、アルミサッシの内側にもう一つ木製のサッシでガラスを貼るものです。省エネを促進するためにも、まず断熱を試してみてください。

・太陽熱温水器、ペレットストーブ、太陽光発電、風力発電

その次に入りたいのが、太陽熱温水器を暖房と給湯器に。それから、ペレットストーブです。ペレットというのは木材屑をぎゅっと固めた物。それがそのまま燃料になるのです。

太陽のお湯をありがとう！～川崎フロンターレ選手からのメッセージ (VTRより)

中村憲剛 選手

チームにとってもとても助かるし、地球にとってもいいことだと思います。僕たちは練習後、シャワーや



お風呂等でたくさんのお湯を使ってしまうので、そういう意味では、太陽熱で沸かしたお湯でシャワーを浴びるだけで、CO2の削減になるという

ことで、僕たちもありがたく感じています。ありがとうございます。お湯の質としては多分変わらないのですが、みなさんの気持ちが入っている分、あったかいです。

(選手写真はどれもフロンターレ提供)

稲本潤一 選手

太陽の熱で温めているから特別なお湯が出てくるのではないですけれど、意識として、自分たちが



ECO活動をしていること、二酸化炭素を出さないことを考えます。ECO活動に参加しながらお風呂に入れることは、すごくありがたいことだと感じています。太陽の熱を使ってしっかり休むという選手の行動から、よりみなさんにECO活動をしてもらえるようもっと活動していくことで、これから川崎市全体が意識すれば全国に広がっていくと思います。

山瀬功治 選手

お湯の感じがやわらかいような気がします。シャワーを浴びて太陽のエネルギーを体に直接注入する



ことで、サッカーをやる上で非常に大事なエネルギーになると思います。ありがたいです。今回の温水器設置は環境を考える上で大変刺激になります。個人個人で意識することも大事ですし、また、チームとして意識することも大事だと思います。将来機会があれば、個人レベルで太陽熱温水器を設置してみたいと思います。

そして、太陽光発電を入れる。風車はものすごく発電効率がいいものですから広げていきたいものです。

このように自然エネルギーでやっていくことができれば、私たちは地球上でずっと暮らしていくことができます。

・家庭では電気と車のエネルギーの消費を減らす

家庭の中で一番二酸化炭素を出しているのが電気です、その中の3分の2を占めているのが、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビの4つでした。これらを省エネ製品に入れ替えるだけで、この消費量が半分に減るのです。この半分に減った分を太陽光発電で賄おうとすると、今平均では3.5kWの太陽光発電を屋根に乗せているわけですが、その半分の2kW足ります。2kWの太陽光発電は、8畳間一つ分くらいの屋根の広さがあればできるので、ここで太陽光発電を取り入れればなんと今後はそれで電気の自給ができるのです。

それなのになぜ、命がけで発電をしなくてはいけないのでしょうか、イラクで100万人殺してまで、石油を奪わなくてはならなかったのだろう、と疑問に思います。私たちの未来はもしかしたら、もう少し別の形で作る事が可能なのではないかと思います。

・電気をバッテリーに貯める

残念ながら太陽光発電は発電するのは昼間、使うのは夜なので、バッテリーが必要になりますね。そのバッテリーについても、世界で一番優れたバッテリーを日本のメーカーが作っています。

昼間発電した電気をそのバッテリーの中にプールし夜必要になった時には、電気自動車のバッテリーから

引っ張り出して使えばよい。そうすれば、これだけで電気が足りる時代になるかもしれないのです。私は間近に迫ったこういう時代を待っています。

それを近づけるために、私たちに何が出来るかいつも考えています。それを現実にやれるという姿を見せていくには、やっぱりあちこちに太陽光発電や太陽熱温水器をつけていく。

・二酸化炭素は家庭では1人当たり年間1トン

現実に川崎フロンターレだけでも2.9トンの二酸化炭素が毎年減るのです。こういうことを見せしていくことが大切だと思うのです。今回川崎フロンターレにつけた分というのは、1世帯(約3人)の出す1年間の二酸化炭素の量を帳消しにしたのと同じ効果があるということですね。それだけの力があるものが、現実に作れるのだということを見せる努力をしなくてははいけないと思うのです。

・次にめざすもの、地域の人に夢を見せられるものは？

もっと知恵を働かせれば、私たちができることって、まだまだ数多くあるのではないかと思います。そのとっかかりとして、地域の人たちが大好きな川崎フロンターレの、お湯の部分にだけでも太陽エネルギーを入れられたというのは大きなことだと思います。

次にやれることは何でしょう。この地域の人が好きで、そこに置くことでこんなことが可能だよと夢を見せられるもの。次はどんなものがあるでしょう。それを是非進めていってほしいと思います。(文責 飯田和子)

[連絡先]

かわさき市民共同おひさまプロジェクト
アクト川崎 〒211-0004川崎市中原区新丸子東3-1100-12
かわさき市民活動センター内ブース2
電話Fax044-422-7343 ・ act.kawasaki@gmail.com
<http://www.web-k.jp/actkawasaki/index.html>

[編集後記]この度の地震津波原発の大災害により、深い悲しみと不安の中にいます。これを契機にどのような歴史的転換をするのか、私たちの責任が問われています。もはや、3月11日以前のように未来を生きることはできない。今こそ、器を小さくして生活しながら、エネルギーは自然エネルギーへシフト、を実現したいですね!★さて今夏は「節電」です。本当はこの先供給量に限界があるのは電力だけではなく、「地球の資源供給に限界がある」のだと思います。まずは今夏、節電で前進しましょう(飯田和子)